初年次キャリアデザイン科目における アセスメントの実施と活用

杉原　亨（関東学院大学 高等教育研究・開発センター）

1. はじめに

近年、教学 IR が盛んに提唱されている。鳥居（2015）は教学 IR を「学習・教授にかかわる人びととの対話を重視し、機関の現実的な課題にそくしたリサーチ・クエスチョンに基づきながら、教学 IR の意義やそれにかかわる思考様式の重要性を内部質保証にかかわる人びとと共有していく地道な過程」と定義している。

また、山田（2013）は、学習成果アセスメントツールを 4 つの領域に分類しており、本稿で扱う学生調査は､新規データから間接的に態度･技能的側面を捉える指標としている。利点としては、学習実態の多面的な把握や低コストでの実施、様々な角度からの比較、実証的検討が可能であることを挙げている。これらからもアセスメントの活用は教育の質向上にとって必須であるように考えられる。

本稿では、2013 年度より全学で実施している 1 年生向け登録必修科目「KGU キャリアデザイン入門」にて、第 1 回授業内（2015 年 4 月 6 日、8 日）で実施した 1 年生向けアセスメント「大学生基礎力レポート」の結果について報告する。

2. KGU キャリアデザイン入門について

（1）キャリア科目の全体概要

関東学院大学では全学共通のキャリア科目として、「KGU キャリアデザイン入門」･「KGU キャリアデザイン基礎Ⅰ」･「KGU キャリアデザイン基礎Ⅱ」･「KGU キャリアデザイン応用Ⅰ」･「KGU インターンシップ事前指導（2017 年度開講）※」･「KGU インターンシップ実習」の 6 科目を設けている。これらは、関東学院大学の学生として、多様な社会の中で『私』『私たち』を積極的に位置づけ、現在と未来をデザインするための科目として位置づけている。

（2）KGU キャリアデザイン入門の授業概要

「KGU キャリアデザイン入門」は、1 年生対象の登録必修科目（春学期）であり、“関東学院大学生としての 4 年間と卒業後をデザインする”をテーマにして､「自己実現力」と「他者とかかわる力」を高め、卒業後を意識した 4 年間の大学生活をデザインすることを到達目標としている。また、選挙権年齢が 18 歳以上に引き下げられたことを考慮し、選挙について考える回を設け、学生に投票することの意味、候補者・政党の選び方、投票の方法についても学ばせる。

学生は、関東学院大学の建学の精神・自校史を学び、グループワークやグループディスカッション、プレゼンテーション等を通して関東学院大学生としての責任や 4 年間の学生生活の過ごし方とその先のキャリアを自ら考えながらデザインをしていく。

3. 授業内でのアセスメント実施について

（1）アセスメント実施概要

関東学院大学は 2014 年度から、1 年次向けのアセスメントテスト「大学生基礎力レポート」（開発：ベネッセ i-キャリア）を、KGU キャリアデザイン入門で実施している。アセスメントは、主に「能力的評価（基礎学力や批判的思考力など）」「行動的評価（協調的問題解決力など）」「アンケート（進路や学びの意識など）」で構成されている。

表 1.アセスメント概要と目的

・実施時期：2015 年 4 月 4 日（月）～6 日（水）
　※KGU キャリアデザイン入門　第 1 回授業内で実施
・受検者数：受検者数合計 2,574 名　※全国受検者数合計 84,542 名（5 月末時点）
・目的：（学生）KGU キャリアデザイン入門の教材、自己理解ツールとしての活用／（大学）大学生基礎力養成講座対象者の抽出／入学生の実態（ニーズやスキル）の把握／FDIR 等の基礎データ　など
・設問項目：①能力的評価（基礎学力、批判的思考力）
　②行動的評価（協調的問題解決力）
　③アンケート（期待、学習習慣、進路意識等）

表 2. 2015 年度受検者数内訳　単位：人

学部		全学	文系 A	文系 B	文系 C	理系 A	理系 B	資格系 A	文系 D	資格系 B	文系 E	資格系 C
合計		2,574	695	192	266	469	132	84	196	143	287	105
入試区分	一般	872	301	68	51	181	39	52	35	36	75	32
	推薦	960	219	60	110	127	42	27	121	67	139	48
	ＡＯ	472	109	37	92	79	32	0	23	31	48	20
	センター	230	50	25	9	77	18	4	14	7	21	5
	留学生	9	4	0	1	3	0	0	0	0	0	0
	その他	9	1	0	3	1	1	0	0	2	1	0

4. アセスメント結果の要約

（1） 大学の魅力

入学生は何を魅力と感じて入学しているのか、期待はどこにあるのかについて調査を実施した。主な特徴は以下の通りである。

（大学全体）
・全学では「クラブ・サークル活動が盛ん」の回答が高く、15.4%の選択率。全国と比較して高い数値。
・資格系 B 学部と資格系 C 学部は、それぞれ約 7 割が「資格や免許を取得できる」を選択。資格への期待が強い。
・理系 B 学部の「自分が学びたい学問分野を学べる」選択率が非常に高く、74.2%。

（学問内容）

・全学では、「専門科目を低学年から学べる」（18.6%・特に文系 A 学部、文系 C 学部、理系 A 学部、理系 B 学部、資格系 B 学部）、「丁寧に指導してくれる、教員との距離が近い」（14.5%・特に文系 A 学部、資格系 A 学部、資格系 B 学部、資格系 C 学部）で資格系学部が高い傾向。上記は全国と比較しても高い数値。
・理系 B 学部の「学びの分野に特長がある」の選択率が高く 53.0%。
・資格系 B 学部と資格系 C 学部の「資格や免許取得支援の充実」の選択率が高く約 6 割。

表 3. 大学の魅力（表中の数字は選択率%／全学平均上位 6 項目ずつを抜粋）

		全学平均	文系A	文系B	文系C	理系A	理系B	資格系A	文系D	資格系B	文系E	資格系C
大学全体	自分が学びたい学問分野が学べる	49.8	38.6	45.3	47.4	56.1	74.2	51.2	55.1	52.4	55.1	51.4
	取りたい資格や免許が取得できる	26.3	16.0	26.0	19.2	19.0	26.5	35.7	35.7	68.5	22.6	72.4
	自宅から通える	17.8	19.7	16.1	18.4	20.3	8.3	20.2	23.0	7.7	16.4	14.3
	クラブ・サークル活動、部活動が盛んである	15.4	20.6	8.9	19.5	16.4	5.3	8.3	19.4	6.3	15.0	3.8
	キャンパス・学生の雰囲気がよい	14.6	15.3	23.4	19.9	11.7	10.6	21.4	9.2	14.0	8.4	21.9
	カリキュラムや学び方に魅力・特色がある	13.6	14.1	12.5	19.2	11.5	25.0	6.0	11.7	10.5	13.9	5.7
学問内容	学ぶことができる学問分野・領域に特色がある	35.9	34.1	27.1	44.0	38.6	53.0	25.0	46.9	21.0	31.0	30.5
	資格や免許取得の支援が充実している	27.2	23.2	20.8	18.4	20.3	24.2	32.1	35.7	58.0	27.5	60.0
	専門科目を低学年から学べる	18.6	17.8	11.5	22.9	23.0	23.5	15.5	15.8	24.5	12.5	15.2
	特にない・わからない	18.6	26.3	16.1	16.5	21.5	13.6	14.3	10.2	8.4	15.3	12.4
	教養教育が充実している	16.6	17.1	15.1	16.5	14.7	13.6	21.4	19.4	27.3	13.9	13.3
	専攻やコースなどを入学後にじっくり選ぶことができる	15.6	16.5	29.2	13.2	19.6	28.0	4.8	11.2	9.8	7.0	4.8

（２）学びへの意識

大学教育を受ける「構え」はどのような状態なのか、どのような機会提供を行えば学生が成長するのかについて調査を実施した。主な特徴は以下の通りである。

・全学として相対的に高いのが「学び・経験への積極性」である。設問としては、「新しいことを学ぶのは楽しい（全学肯定回答率 88.0%）」「教員や仲間の間で積極的に意見を交換したい（全学肯定回答率 83.0%）」など。学部としては、資格系 A 学部と資格系 B 学部が高い。
・全学として相対的に低いのが「学びの見通し」である。設問としては「授業で求められるレベルはクリアできる（全学肯定回答率 60.8%）」「卒業までに何を学んでいくのかイメージできる（全学肯定回答率 67.9%）」などで、これは全国平均とも同様の傾向。
・「大学で学ぶ価値」「学びへのコミット」については、資格系学部（A・B・C）、理系 B 学部が相対的に高い状況。

表 4. 学びへの意識（表中の数字は達成率%）※達成率＝（尺度得点／満点）×100

	全学平均	学部別									
		文系A	文系B	文系C	理系A	理系B	資格系A	文系D	資格系B	文系E	資格系C
大学で学ぶ価値	73.2	69.4	70.6	70.1	72.5	81.0	84.3	71.2	84.3	74.6	80.0
学びへのコミット	74.6	71.9	73.1	70.8	73.9	82.5	83.3	72.4	84.2	75.2	80.1
学びへの心構え	65.9	66.3	65.2	63.8	64.7	68.1	70.7	65.9	70.1	66.0	63.5
学びの見通し	62.9	59.7	62.4	60.8	63.3	66.4	71.1	61.9	71.2	63.5	67.4
学び 経験への積極性	73.6	70.9	71.3	73.0	71.4	78.4	82.1	73.0	83.2	76.0	75.3

（3）協調的問題解決力

社会で求められる「チームで問題を解決する力（経験）」はどの程度備わっているのかについて調査を実施した。主な特徴は以下の通りである。

・全ての項目で、全学平均は 50%前後を推移している。
・資格系学部は全体的に協調的問題解決力が高い傾向。
・全学の中で達成率が低かった設問の一例として、「挑戦する経験：目標を持ったら実現のための計画を立てた」（全学肯定回答率 32.3%）／「続ける経験：苦手なことでも続けられるように工夫をした」（全学肯定回答率 30.3%）が挙げられる。

※肯定回答率＝（肯定回答者数／全受検者数）×100

表 5. 協調的問題解決力（表中の数字は達成率%）※達成率＝（尺度得点／満点）×100

	全学平均	学部別									
		文系A	文系B	文系C	理系A	理系B	資格系A	文系D	資格系B	文系E	資格系C
挑戦する経験	54.7	52.8	52.7	53.8	52.8	58.3	65.6	52.4	63.9	54.1	62.6
続ける経験	50.4	48.3	47.6	49.2	47.6	53.4	61.6	48.5	60.2	51.0	61.0
ストレスに対処する経験	51.9	50.3	50.4	51.9	49.1	54.0	61.7	51.3	60.0	51.1	59.1
多様性を受容する経験	55.0	52.9	55.2	55.6	53.1	55.1	63.5	54.6	61.9	55.5	57.3
関係性を築く経験	53.9	52.0	54.4	55.1	51.0	54.9	62.1	53.2	64.1	52.9	58.7
議論する経験	48.7	48.2	49.0	49.3	47.9	49.4	53.4	46.9	54.7	47.0	48.4
課題を設定する経験	49.0	48.3	49.4	47.8	49.1	50.0	55.0	48.4	51.5	47.4	52.7
解決策を立案する経験	49.2	48.2	47.9	48.6	48.0	51.3	55.9	48.6	55.3	47.4	54.4
実行 検証する経験	46.9	45.4	45.4	46.7	44.4	48.5	55.2	46.0	53.8	46.4	55.5

5. アセスメントの活用法

（１）授業内での活用

学生（受検者）に返却されるアセスメントの結果報告書を、参考にしながら就職してみたい業界・業種・職種について調べて、将来について考える機会を与える（第８回講義：業界・業種・職種について考えよう)。

また、結果報告書のコメントを参照して自己分析も行う。自己分析は、自己理解を深めることができ、特に自分の強みを自覚し、強みを伸ばすためにどのように行動していくかを考えていく。これらは授業内で活用するワークシートつきのテキスト（教科書）を併用して行う。

（２）その他、学内での活用

アセスメント結果はKGUキャリアデザイン入門の授業を運営している高等教育研究・開発センター内で共有され、FD（Faculty Development）などの教学施策への参照データとして活用している。また、要望があった学部にて、アセスメントの結果報告会を行い、教員と共有している。

6. おわりに

2014年年度から上記授業内でアセスメントを実施しており、授業内での活用や、一部学部での結果の共有は出来はじめている。今後は本アセスメントデータを、学内の様々なデータと関連させて、教学施策への反映を行っていきたい。

参考文献

関東学院大学,KGUキャリアデザイン入門2016
関東学院大学高等教育研究・開発センター NEWS LETTER 2015 Vol.8
鳥居朋子,2015,立命館大学における教学IRの開発の現状と展望 -IRプロジェクトの歩みとリサーチ・クエスチョンを通して-,立命館高等教育研究第15号,pp.37-53
山田剛史,2013,学びと成長を促すアセスメントデザイン,Between2013 8-9月号